令和6年第4回東北町議会定例会会議録

令和6年12月10日（火曜日）午前10時00分開議

○議事日程（第2号）

日程第1 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

◎一般質問

○議長（岡山粕男君） 日程第1、一般質問を行います。

一般質問の通告は3名であります。

通告順に発言を許します。

13番、蛭澤正雄議員は、一問一答方式による一般質問です。蛭澤正雄議員の発言を許します。

[13番 蛭澤正雄君登壇]

○13番（蛭澤正雄君） おはようございます。それでは、早速一般質問させていただきます。

1 問目といたしまして、乙供駅前駐車場の市日についてということです。乙供駅前の市日で、駐車場の一部を利用して市日を開催しているようですが、この貸出しについて、どういう経過で貸出ししたのかお伺いします。

そしてまた、この市日の開催が実態として、月に1のつく日に3日だけ使用するのに、柵を設けて駐車場を閉鎖して、町民が利用できないと、私にそういう声がありました。それで、どうしてこういうふうに柵で覆っているのか、その理由を伺います。

2 番目といたしまして、酪農政策について伺います。私もいろんな場面がありまして、たまたま酪農家のうちに尋ねました。廃業したと、いつ廃業したのと言ったら、何年か前と言って、びっくりしましたけれども、そういう中において酪農家の戸数、生牛乳量等が平成22年からどれほど減少しているか、また

その対策にどんな具体的な事業を実施しているのかお伺いしたいと思います。

そしてまた、萩原牛乳は東北町の酪農家だけの牛乳を原料としていると答弁しておりましたが、本当か。なぜかと申しますと、いろいろなイベントで200ccほどの小さい牛乳を皆さんに宣伝ということで配布しております。それは、本当に東北町産なのか、その辺をお伺いしたいと考えております。

3番目といたしまして、中学生が台湾と交流事業について伺います。今年度、台湾と中学生の交流事業を実施したようだが、台湾側の受入れ主体はどこなのか。先般の教育民生常任委員会でちょっと疑問に思いましたので、その内容を伺いたいと思います。

以上です。

○議長（岡山粕男君） 町長。

〔町長 長久保耕治君登壇〕

○町長（長久保耕治君） 皆さん、改めましておはようございます。それでは、13番、蛭澤正雄議員のご質問にお答えをいたします。

一般質問通告のありました質問事項1の乙供駅前駐車場の市日についてお答えをいたします。質問要旨の1点目、乙供市日で乙供駅前駐車場の一部の利用をどういう経緯で貸しているか伺いますについてであります。この事業につきましては、乙供駅及び上北町駅周辺の町なかにおいて、にぎわい創出を図る事業者や団体等を駅前にぎわいパートナーとして登録をし、平日、土日祝日問わず各種イベントを実施することで、駅前の活性化を推進することを目的に、駐車場の一部を無料貸出ししているものでございます。

次に、質問要旨の2点目、実態として月に1のつく日に3日だけ使用するのに、柵を設け閉鎖し、町民が利用できない声があるが、伺いますについてであります。当初この事業を開始した頃、駅前駐車場から全く動かない車両が二、三台あり、市日主催者に大変ご迷惑をおかけしたことから、バリケードを設置したところでございます。

しかしながら、蛭澤議員の言うとおおり、駅前駐車場につきましては、どなたでも利用できる駐車スペースとなっております。利用者は、市日に限らず、駅利用者、福祉センターに来られるお客様も使用していることから、バリケードの設置につきましては駐車場の利用方法に問題があったものと感じております。

町民の皆様方、さらにはこれまでご利用いただいていた皆様方には、ご不便とご迷惑をおかけしましたことにおわびを申し上げます。

また、この件については、今回の蛭澤議員の質問以前にも、何件か利用に対する問合せがありましたので、内容を精査した上で、市日主催の代表者と話し合い、11月21日の市日終了後からバリケードを外し、一般駐車場として開放しております。

なお、今後は市日の前日と当日のみの制限とし、駐車場利用者には看板を掲げるなど、駐車場制限にご協力をいただきたいと思いますので、ご理解を賜りたいと存じます。

次に、質問事項の2点目、酪農政策についてお答えをいたします。質問要旨の1点目、酪農家の戸数、生牛乳量等が平成22年からどれほど減少しているか、その対策にどんな具体的な事業を実施しているかについてであります。全国的に見て現在の酪農を取り巻く環境は、近年の夏場の猛暑日への対応や飼料、資材価格高騰への対応など、非常に厳しい状況にあると認識しております。

質問内容にある事項についてですが、当町の酪農家の戸数については、平成22年度で59経営体ありましたが、そこから徐々に減っていき、令和5年度では28経営体となっております。

また、生乳の生産量については、平成22年度で約1万8,000トン、令和5年度では猛暑による影響もございましたが、1万6,000トンとなっております。戸数が約5割減少する中、生産量の減少率が約1割にとどまっていることは、酪農家の皆様の努力によるものと理解しております。加えて、需要に応じた生産にも取り組んでいただいております。生乳は廃棄されることなく、全量が回収されている状況です。

続いて、酪農振興についての事業の実施状況ですが、町では関係機関と連携を取りつつ、各種対策を講じております。町で行っている主な対策でございますが、未經産牛の購入に係る費用に対し長年補助してきており、今年度は1頭当たり費用の5分の1以内、上限10万円を助成しております。

また、飼料価格の高騰対策及び飼料自給率の向上のため、採草地の更新に係る経費に対し補助しており、今年度は補助率を4分の1から3分の1に引き上げて助成しております。さらには、休牧している町営放牧場を活用し、町内の

畜産団体に採草地として無償で貸出しを行っております。

引き続き、畜産農家の負担軽減と産業発展につながる施策を展開してまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

次に、質問要旨の2点目、萩原牛乳は東北町の酪農家だけの牛乳を原料と答弁していたが、本当か伺いますについてであります。それでは改めて説明をさせていただきます。萩原乳業株式会社で作られている萩原牛乳は、我が町を含む県内の生乳100%で作られております。中でも、あおい森の牛乳は、東北町で生産された生乳100%で作られております。

さて、東北町では、令和4年に農林水産省が立ち上げた牛乳でスマイルプロジェクトに参加しており、その活動の一環として、萩原牛乳については学校給食での使用や、各種イベントや会議において提供を行い、牛乳の消費拡大を図っております。

また、東北町産生乳100%で作られたあおい森の牛乳に関しては、東北町産牛肉の販売イベント時に無料配布し、東北町産牛乳の認知度向上や消費拡大を図るとともに、地産地消を推進しております。

今後とも様々な機会を利用して周知を図り、消費拡大に努めてまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

最後に、質問事項3の中学生が台湾と交流事業についてお答えをいたします。質問要旨の今年度、台湾と中学生の交流事業を実施したようだが、台湾側受入れ主体を伺いますについてであります。台湾、台北市、天母国民中学校と東北中学校、上北中学校が姉妹校締結しておりますので、台湾側受入れ主体は天母国民中学校及び天母国民中学校のPTAということになります。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（岡山粕男君） 蛭澤正雄議員。

○13番（蛭澤正雄君） それでは、再質問させていただきます。

乙供駅前の市日の件ですけれども、今まで別なほうでやっていたようだけれども、それでこちらのほうの乙供駅前の大きい駐車場で、今度はにぎわいパートナーとしてやるのだと。私は、これには反対するものではありませんけれども、ただこのにぎわいのこれからを発展的に構想する場合には、考える場合において、町長はこれを、今のところは団体なのか、個人なのか、登録という

ことは個人で登録して店を出すということなのか、それともそういう団体があって、それを相手にしているのか、まずそれを答えてください。

○議長（岡山粕男君） 町長。

○町長（長久保耕治君） 蛭澤議員にお答えをいたします。

このにぎわいパートナーの団体なのですが、いわゆるにぎわい創出につながる事業を実施しようとしている町内の在住者、または町内に事業所を有する、そういった方を対象としておりますので、個人だったり、団体だったりというものもありますし、様々なそういった関係でいろいろな組織、コミュニティーを組んでいる方々も対象になるというふうな認識であります。

○議長（岡山粕男君） 蛭澤正雄議員。

○13番（蛭澤正雄君） 不特定、個人、団体関係なくということで今答弁いただきましたけれども、それでこれを町長として、これからにぎわいパートナーをどういうふうにしていきたいか、考えをお伺いしたいと思います。

○議長（岡山粕男君） 町長。

○町長（長久保耕治君） お答えをいたします。

やはり乙供駅前、上北町駅前も、少し寂しいというふうな町民の皆さんからの声が聞かれます。また一方で、駅前を起点としてにぎわいを創出したいというふうな方々も、一定数いらっしゃいますので、やはり駅前がにぎやかであった時代というのがいろいろあったかと思えます。そういったのを創出することによって、駅前にはいろいろな商店街だったり、人が集まるようなスペースもありますので、そういった形の中で東北町のにぎわいを創出していければいいなと思えます。

あともう一つとして、駅前にぎわいパートナーに関して、しっかり周知されていない部分もまだあるのかもしれないので、そういったことも確認しながら、そういったイベント等を開催したい方々に、ぜひ使ってくださいというような周知を随時行ってまいりたいと思っておりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

○議長（岡山粕男君） 蛭澤正雄議員。

○13番（蛭澤正雄君） 従来のある団体、または個人そのままでもらうというふうな感じのようですので、私はせっかくこういうふうな駐車場を開放し

て、地域の方々ににぎわいを取り戻そうとするのであれば、やっぱり町としてももう少しいろんなのを工夫していただいて、その中に農家の方々もあるだろうし、それからいろんな業者もあると思うので、もう少しこの方々と話し合いしながら、町長は町民と話し合いながらやっていくのだと、そういう話ですよ。そういう意味で、私は少しそういう面で発展的にこれを、このにぎわいをよくしていこうと思ったら、そういうふうな働きかけになるように、そういうふうな組織づくりといいますか、やはりそういうのを考えていくべきだと考えております。それをこの部分では申し添えておきたいと思います。

2番目といたしまして、私に限らず、前にもそういう駐車場に柵を設けて閉鎖したということは、本当に町民の方々が何でこうなのだと。たった3日、そしてまた時によってはやらない日もあると、そういうふうに非常に私どもに対してはどうしてなのだと、やっぱりこれは言うべきだということで今日取り上げてありますけれども、やはりこういう業者なり、こういうにぎわいもいいのですけれども、もう少し深く考えて行政として執行すべきだなと考えております。町長は、そこは反省したということでもありますので、でも残念ながら、やはり政策としてやるとしたら、もう少し綿密にやるべきだったのではないかなと思います。1番の駐車場の件は、市日の件については、これで終わります。

2番の農政、酪農政策についてですけれども、先ほど59戸あったと、その中で現在は28戸あったと。打合せでは七十何戸あって、二十何戸と言いましたけれども、これを精査して59戸で、28戸に減ったと。皆さんも聞くとおり、たったここ10年余りの中で、もう3分の2近く、4分の3かな、本当に激変しているわけです。

それで、1頭に10万とか、採草地を貸したと、どこの町村でも今やっております。どうしてかという、牛の数が減っているわけです、戸数も。乳量が変わらないと言いますが、酪農家の中で1酪農家が300頭とか400頭とか、そういうのをやっている方々があるからこそ、1万8,000から1万6,000ですか、その程度ではありますけれども、でも酪農家の衰退は本当に甚だしいものです。これは、もう酪農家以外にもそういうのは非常に多いです。そういう中において、私はこの衰退、酪農家がなくなっていくのを町政として、やはりこれ以上に、町長若いのですから、もっと魅力ある、若い方々が取り組めるような、酪

農家の方々とまた町長は話し合っていますよね。それは、酪農家はどのような声を出しているのか、町長からそこを聞きたい、お願いします。

○議長（岡山粕男君） 町長。

○町長（長久保耕治君） お答えをいたしますが、まず畜産に関しては、畜産業界のみならず、農業においても、また商工業においてもやはり後継者不足と高齢化が進んできているのが一因ではないのかなと思います。そういった中でも、畜産は例えば大規模、機械化……

〔「酪農、畜産ではない」と言う人あり〕

○町長（長久保耕治君） 酪農ですね。失礼しました。酪農に関しては、フリーストール等の大規模に仕向けるような政策と、またクラスターでやったり、そういったものがいろいろとありまして、他の第1次産業の中でも先駆的、先進的に集約化を図ってきたものではないのかなというふうに私は考えています。そういった中では、魅力のあるようなという部分であったり、畜産農家が抱えている様々な問題という中で、やはり冒頭申し上げましたように後継者不足がありますので、酪農の部分に関して、これはでも全国的な問題であって、どの業界もそういった形になっています。

ですので、まずは後継者がしっかりそのおうちの、例えば息子さんたちが帰ってきて酪農をやれるような環境を提供したり、そういったもので酪農自体をしっかり支えるというのは、いわゆる一自治体のレベルではなくて、国がしっかり政策を掲げていかななくてはならないような、大変大きな問題だと思っておりますので、そこは国と連携を取りながら、様々な情報を仕入れながら、町もそれに基づいて進めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（岡山粕男君） 蛭澤正雄議員。

○13番（蛭澤正雄君） 酪農家は、非常に今全国的にも大変だと。だけれども、そういう中で今酪農界も酪農家やってこない人たち、様々ありますけれども、そういう中で東北町は家族経営もできるような、そういう魅力ある酪農家をややはり政策として取り上げて、若い方々が、憧れて来る方々が結構あると思います。それが他町村では幾らかあります。

そしてまた、今全国の中では、せっかくうちのほうではおがわら湖も、そこ

できけるチーズとかなんとかとやっておりましたけれども、それももう全然手をかけることなく終わりましたけれども、でも今そういうふうな2次産業といえますか、加工品といえますか、そういうのをやって、全国的には非常に、先般もテレビでやっておりましたけれども、そういうふうなJAの農協とか、そういうのとタイアップしてそういうふうなのを考えていかないと、このまま国に任せて、国がそうだからということではなくて、やっぱりここは酪農家の方々とどういうふうにすればいいのだと、そういうことをもう少し膝を交えて、どういうふうにしたら改善できるのだと。

確かに今町長が言ったとおり、国では大規模、300頭とか500頭とか、そういうふうなものの3億円を組んで、建物を建てて、そういう経営しなさいと、そういう補助も非常に多く、もう8割方ですか、補助でやっているみたいですがけれども、でもそれは何戸かしかやれないわけです。そういう中において、やはり東北町には、今現在も50頭から60頭やっている方々が結構あるわけです。そういう方々ともう少し膝を交えて、どうすればいいのかと。ただただ酪農家の方々が町長に対しては、改善策といえますか、そういうのは町長は酪農家の方々と話をしているのか。何か前に広報を見たら、したという話でしたけれども、内容はどういう話をしているのか伺いたいと思います。

○議長（岡山粕男君） 町長。

○町長（長久保耕治君） それでは、お答えをいたします。

まちづくりミーティングで、酪農の方々といろいろお話をさせていただいたときは、ちょうど昨年、一昨年でしたか、一番飼料が高騰した時期だったと思います。そのときは、率直に飼料が高くてなかなか大変だというふうなお話でした。飼料に関しては、とりわけ配合飼料の単価がすごく高くなっている、輸送コストも増大している。それにロシア、ウクライナ、ウクライナは世界の穀倉と言われている地帯でございます。そういった形の中で、やはり経営の中でのいわゆる流通飼料費が大変高くなっているということの懸念のお話がありました。

そういった部分において、根本的に解決をするためには何が考えられるかというふうな話をしたときに、その1つがやはりある程度飼料、いわゆる餌を自給するような体制も必要ではないでしょうかということになりました。そうい

った形の中で、町営放牧場、ちょっと赤字経営だった放牧場を開放して、いわゆる採草地として酪農家の皆さんにお貸ししたり、そういったことを始めております。

今配合飼料価格が高値で安定してしまっている部分があって、酪農家の皆さんは今でも大変な思いをしているかと思います。今町では、農地マッチングという事業も行っております。そういった中で、うまく畑の賃貸を進めていきながら、そういった自給飼料を、自分たちでやっぱり飼料を作るといえるのか、生産するような仕組みをつくってみたい、子実用のトウモロコシだったりという、そういった国の補助事業で作れるような事業もまだありますので、またTMR等もうまく活用しながら、TMRのほうもまだキャパがあるというふうなお話も、ちょっと農協の組合長さんのほうからもいただいていたので、そういったものをうまく取り入れながら、今までの酪農経営と、これから円安だったり、飼料高、コスト高というふうな部分がある中で、今までの体制では、自分たちが変えていかなければやはり進んでいけないという部分もあります。

つぶさに、そういった中で酪農家の方々のご意見も伺いながら、適宜自分たちの中でできることをしっかり進めていきながら、また酪農家の皆さんと国に対してはしっかりした要望も行っていかなくてはならないと、そのように考えておりますので、ご理解賜りたいと思います。

以上です。

- 議長（岡山粕男君） 蛭澤正雄議員。
- 13番（蛭澤正雄君） 分かりました。飼料が高いとか、それから今全国的にもそうですけれども、非常に少ないので、こういう公営牧場の開放とか、そういうのはどこでもやっているみたいですが、ただ私が今言っているのは、町長が酪農家の方々とこの非常に厳しい中を、これからどう酪農家を、酪農家の方々だけでも、専門の方々が見えないところをやっぱり専門でない方が見えるわけです。それがやはり行政なわけです。行政として、こういう苦しいときにどういう構想を持って話をしているのか。私も、やはりこれは人づくりをしていないから駄目だと思います。やはりそういう酪農に対してでも、全国的に綿密な調査をして、これからどういう酪農経営が生き残れるかということをも十分、町の中でもそうだし、そういう中でもっともっと町民の酪農家の方に限ら

ず、全業種ですけれども、その辺をもう少し私は、国がこうだからということではなく、やっぱり国も精いっぱいやっていて、町もそういうふうに行っているのだけれども、そういう中でどうこれを切り開くかと。それは、やはり私は行政だと思います。町長の手腕だと思います。

そういう面で町長は、これを切り開くには、これから酪農家との話合いでどうやっていくか、その構想がもしあったら伺いたい、なかったら回答しなくてもいいですけれども。

○議長（岡山粕男君） 町長。

○町長（長久保耕治君） お答えをいたします。

いつのときもそうなのですが、個々の酪農の経営というのにはいろんな形があると思いますので、町として上からこうあるべきだというふうな考え方では私はなくて、むしろ皆さんのタイプに合わせてどういうふうな形が、例えば小規模、中規模、大規模に分かれると思うのですが、おのおの農業経営、酪農経営、畜産もそうなのでしょうけれども、やはり困っている部分がちょっと違って来たりします。そういう意味で、東北町には様々なタイプの酪農家の方々がいらっしゃると思うのです。北海道みたいにはほぼ大規模というふうな形ではないので、そういった部分では、やはり蛭澤議員がおっしゃっているように、皆さんの話をしっかり聞きながら、どこを皆さんが目指しているのかということ、また小規模な方であれば、どこかと一緒に共同経営してやっていきたいという方もあるかもしれませんし、大規模な方であれば、そういった人たちを吸収しながら、自分たちももう少し大きくやっていって、生産の集約化を図りたいという方もいるかもしれません。

ですので、やはり酪農の地域というのはある程度限られていて、そこにしっかりコミュニティーができておりますし、全国的にも酪政連だったり、酪農の業界というのは大変組織が強固であって、強いものだと思います。そういった方々の声にしっかり耳を傾けながら、どういったものが必要かというのは、適宜町として対策を考えていかなければなりませんし、その中で政策のミスマッチが起こらないように、しっかり情報共有するということがまず大切になってくると思います。

1つ言えることは、今までとかなり世の中の社会構造が違ってきている中で、

これから生き残る方法というのを、自分たちの経営を今しっかり省みるチャンスでもありますし、また町としてもこれからどういった新しい政策を考えていくかという転換期、いわゆる過渡期に当たっている部分もあるかと思います。そういった意味で、蛭澤議員が今ご提案いただいたことを真摯に受け止めながら、町もしっかり対応してまいりたいと思っておりますので、ご理解賜りたいと思います。

以上です。

○議長（岡山粕男君） 蛭澤正雄議員。

○13番（蛭澤正雄君） 町長の答弁を聞きまして、私の考えとは違うのですが、北海道も大規模と、それから家庭的な家族経営の酪農家、全国的にもそういうふうなのは大規模、それから家庭的な家族経営のできる酪農家と、そういう2つに分かれるような、そういう酪農家は魅力のあるやり方をしているところが結構あります。そういう中で、やはりここは淘汰されることを待つような形ではなくて、ある町村を見ると、行政が先頭を切ってそういういろんな事業をやっております。言いませんけれども、私の考えだとここをどう切り抜けるか、やはりここは最大限いろんなことを調査しながら、魅力ある若い人たちが来られるような政策をすべきだなと考えております。この件は、これで終わります。

次ですけれども、萩原牛乳の件ですけれども、私が萩原牛乳さんから直接聞いたところ、東北町の前の輝ヶ丘地区の酪農家ですけれども、そこで代表の方があおい森の牛乳、それで東北町だけの牛乳、生牛乳ですね、それを検査も別個にして、それで萩原牛乳で東北町産ということで名前を入れて、もう何十年も前から生産しています。ただ、萩原牛乳はどうですかと聞きましたら、これは県内の全部ではないみたいですが、県内の酪農家の方々の牛乳全部だと、そういうことで私回答いただきました。東北町の牛乳も多少入っているかもしれないし、入っていないかもしれないし、私が聞いたら、東北町はもう東北町で独自でやっているような話でしたけれども、ちょっと入っているか、入っていないか、それは私は実態分かりませんが、ただ萩原牛乳は県内全体です。その辺は、いろんなイベントで町長はあおい森の牛乳を使っていると、私は見たことないのだけれども、ほとんど萩原牛乳でやっておりますけれども、

この辺はやはりこの牛乳の販売促進にしても、町民の方々は萩原牛乳もみんな東北町産だなと、私もそう思っておりました、先般の質問で。その辺は、これからこの牛乳を町民の皆さんにPRするときに、今までどおり東北町の牛乳ですよというふうに訴えるのですか、PRするのですか。やはり東北町産ではないとはっきりと、きちっと言うべきだと思うのだけれども、その辺のこれからの取組をどういうふうにするのか、それをお伺いしたい。

○議長（岡山粕男君） 町長。

○町長（長久保耕治君） 蛭澤議員にお答えをいたしますが、まず先ほど答弁もしたように、今までも萩原牛乳は青森県産の牛乳100%で、あおい森の牛乳は東北町産の牛乳100%だということはしっかり周知しております。その上で、様々なイベントにたまたま蛭澤議員がお越しいただいているので、恐らくどういったイベントで使っているかをご理解いただけていないと思いますので、ぜひ次は、今度は一番近いところで12月21日、道の駅で、これも東北町産の牛肉を販売いたしますが、そのときに、牛肉販売ではいつもお配りしているのですけれども、東北町産100%のあおい森の牛乳の1リットルパックを先着の皆さんにお配りいたしますので、ぜひ蛭澤議員もお越しいただいて、確認をしていただければと思います。

その上で、また話が戻りますが、萩原牛乳とあおい森の牛乳の部分に関して、周知はしているものの、聞き方によって、例えばそれをごっちゃにしてしまっただけで聞かれる部分があるとすれば、そこは我々のほうで修正をして、もう少し分かりやすいご説明をしてまいりたいと思います。そこは、少し考えてまいりたいと思いますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（岡山粕男君） 蛭澤正雄議員。

○13番（蛭澤正雄君） 町長、町民の方々は、各種団体がほとんど萩原牛乳のちっちゃいのをもらっているわけです。みんなこれが、議会でもそうです。今回も200、あれ萩原牛乳です。それを今みたいに詭弁に、前にもやったときだって、200ミリリッター誰にもくれて、町長はいつだかのイベントだって、200のちっちゃいの、萩原牛乳みんなにあげているでしょう。もう少し真摯に、素直にやっぱり謝るときは謝るべきだと思います。誰があれば200ミリリッターの、今度はそれを1リッターの牛乳をあげますと。そんなに詭弁を使ったって駄目

です、皆さん笑っています。やはり私は、もう少し牛乳の在り方もしっかりすべきだと思います。学校給食だって、萩原牛乳やっているのでしょ。あおい森牛乳、何に使っていますか。やっぱりその辺は、町民がしっかりと分かりやすく、誤解されないようにするのが行政です。ここをきちっとこれからやるにしても、精査するべきです。そこをきちっとやっていただくように、これで牛乳の件は終わります。

○議長（岡山粕男君） 質問者、進めてください。

○13番（蛭澤正雄君） 次に移ります。次の中学生が台湾との交流について、私非常にびっくりしました。相手がP T Aという任意団体と。これは、たまたまむつ市と国の文科省の外国との青少年の交流事業ということで380万、平成7年でしたけれども、そのときに私東北町の子供会の会長をしております、そのときこれはいいなと思って応募しました。そうしたら、県ではむつ市と十和田市と東北町の3団体がありました。そういうことでこの交流事業を知りましたけれども、むつ市はこの当時はやはり国際交流協会というのがありまして、その中で生徒の交流事業、相手も国際交流事業といえますか、そういう相手だったと。そういう相手同士がそれであれば、私は何ら問題ないと思います。ただ、私のほうの台湾は、うちの……もう一つ付け加えておきます。それで、むつ市はアメリカのワシントン州のポートエンジェルス市という、そういうところで、国際交流と並行しながら、やはり姉妹都市の交流の拡大を図る、友好と親善の輪を広げる意味として、中身のあるものとして姉妹都市の盟約というのを結んでおります。それで、今もやっているようです。

それで、やはり台湾とも、どこかの自治体とともに国際交流、P T Aの国際交流でもいいのですけれども、私は生徒を派遣するに当たって、相手がP T Aという任意団体であって、それを先般教育民生常任委員会の中で非常にこの人に世話になったと。私言いました、何でその個人に世話になったのですかと、行政が。そして、それもやはり将来ある子供たちを連れていっているわけです、行政として。ただの修学旅行ではないです。その辺の責任の在り方というのは、町長はこれで普通だと思いますか。それとも、法律に違反ではないのです、常識的に誰が見てもこれでいいのかなと、ここはどうしても思いました。それに対して町長はどう思いますか。

○議長（岡山粕男君） 町長。

○町長（長久保耕治君） 蛭澤議員にお答えをいたします。

さきの委員会でのやり取りのお話を今されましたが、大変申し訳ないのですが、委員会に出席していないので、どういうやり取りがあったのか、その後どうなったのかということは、ちょっと私では分かりかねますので、担当課長に説明をさせます。

○議長（岡山粕男君） 学務課長。

○学務課長（沼村輝彦君） 蛭澤議員のご質問にお答えをいたします。

蛭澤議員、私先般の教育民生常任委員会の際に、まず台湾の窓口として、リンさんという方から非常にお世話をいただいていると、それで今回の台湾交流事業についても、三沢五中さんと大体日程がかぶるような形で進めさせていただくことになったというご報告をいたしました。といたしますのは、台湾の受け入れる側でも、やはり三沢五中さんと東北町と2回やるよりだったら、1回で済ませたほうがより効果があるというようなことでの回答があって、今まででしたら7月に三沢五中さんが先に行って、8月に東北町さんに行って、我々、いわゆる経費の問題についても常任委員会の際には申し上げましたけれども、そちらのリンさんという方に結構な額の金額を負担いただいているというお話をさせてはいただきました。

実は、多くの東北町の関係者も、三沢市の関係者も、そのリンさんという方がかなりの額の負担をしているという思い込みがありまして、この点は私も確認をしないで説明したというのは、本当に申し訳なかったことだとは思いますが、現地、今回台湾のほうに行って確認をいたしましたところ、私は行かなかったのですけれども、確認をいたしましたところ、向こうのPTAの関係者、学校関係者、皆さんで会費を負担して、様々賄っているというお話をいただきました。

以上、報告させていただきます。

○議長（岡山粕男君） 蛭澤正雄議員。

○13番（蛭澤正雄君） 今課長のお話聞いて、私はそこを聞いていなかったけれども、たまたま言いましたけれども。たまたま台湾来て、いろんな日程が狂ったのはいいです。向こうは三沢市が来て、懇親会だか、交流会でしょうね、そ

れを1回にしたいと、経費がかかるからと。そういうふうな扱いも出たということに対して、私残念だった。それで、ここは私が今町長から聞いているのは、この交流事業というのは子供たちを連れていくには、町政として行くには、やはり裏には公が共にやるべきではないかと。何で町そのものがそういう任意団体、そしてまた会費を向こうで持って、お世話になっていると。これに対して、町長としてどう思いますか。

○議長（岡山粕男君） 町長。

○町長（長久保耕治君） お答えをいたします。

今経費があたかも台湾のほうで全部持っているようなお話をされていますが、それは誤解でして、台湾のほうから天母中学校の生徒さんがいらっしゃるときもあるし、私たちが行くときもありますし、お互いの経費はお互いでちゃんと持ち出しているということをまずご理解いただければと思います。

あと、いろいろと蛭澤議員からお話がありましたが、やはり国が違いますので、お互いやり方が違う部分もあるかと思えます。ですので、やっぱり郷に入ったら郷に従えで、そちらのほうのやり方はそちらのほうのやり方ですし、私たちは私たちがこういった交流をじっくりやっています。また、これからいろんな部分の中で、変化していく部分もあると思えますし、そういうのは臨機応変に考えていけばいいと思えます。

○議長（岡山粕男君） 蛭澤正雄議員。

○13番（蛭澤正雄君） 町長、国際交流といっても、任意団体と行政は違うのです。東北町も福建省のスイシン県というところと姉妹都市、国際交流やりました。そのときは、私は国際交流の事務局長としてやって、町は町としてスイシン県とちゃんと提携して、学校をつくるというふうな、そういうふうにはやっぱり行政と子供たち、そういういろんな面でここまで来たら、国際交流協会といえますか、そういう任意団体、それとまた行政は行政として子供たちのことを考えたら、向こうの公の保証、保証と言えは変な話ですけども、やはりそういうふうなしっかりした中で子供たちを私は連れていくべきだと、大人も同じですけども。その辺の国が違うからと、そういう問題ではないです。そこをもう一回聞きたいなど。

○議長（岡山粕男君） 町長。

○町長（長久保耕治君） 蛭澤議員にお答えをいたします。

今中国の以前の交流のお話をされたようですが、そのときの交流の場合と今回の交流というのは、ちょっと形が違うと思いますので、そこをまずご理解いただければと思います。何度も申し上げておりますが、双方の中学校同士の姉妹校というか、そういった交流ですので、それで例えば台湾のお国のほうでは台北市の名誉市民協会の方々が窓口になっていきますと、町としては町の中学生たちを町がサポートしているというふうな形の違いですので、まずそれをしっかりご理解いただければと思います。蛭澤議員はそういうふうに思っているかもしれませんが、今こういったやり方の中で、双方で何か問題があるということではありませんので、それをつぶさに日本側はこうだからこういうふうにしてくれとかというのは、ちょっと違うのではないかなと思いますので、ご理解をいただければと思います。

今後何か問題等が起これば、それは臨機応変に対応すると先ほどから申し上げておりますし、時代は変わっています。今日いろいろ今の時代のご質問をされる方もおりますが、やっぱりその時代、時代で既成の概念というものがどんどん、どんどん変わってきている部分もありますので、そういった時代に即した、また状況に即した形というのが求められると思いますので、それはご理解いただきたいと思います。

○議長（岡山粕男君） 蛭澤正雄議員。

○13番（蛭澤正雄君） 町長、時代が変わっても、やはり国際交流というのはしっかりした基盤の中で子供たちを派遣しないと、親は心配だと思います。それは臨機応変に何でもかんでも、今は臨機応変にやっているみたいですが、これからはやはりそれを見直してきちっとやっていかないと、町民がこれ聞いて、これでいいのかなと。どこも姉妹校を結んでいます。でも、みんな後で行政がきちっとサポートしているのです。外国も盟約を結んで、きちっと交流させているのです。そういう教育という面から、旅行とは違うのです。そこをもう少し検討していただかないと、これからの台湾との交流事業というのは、本当に大変だと思います。皆さん中身を知ってびっくりしたと思います。

私はこれで終わっておきます。今日は終わります。これで終わり。

○議長（岡山粕男君） これで13番、蛭澤正雄議員の一般質問を終わります。